

平成 22 年 4 月 15 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2010
 課題番号：19520168
 研究課題名（和文）徳川期合巻史再構築のための初代歌川国貞の合巻に関する書誌学・文学的調査と研究
 研究課題名（英文）Bibliological and Literary Research on the Gokan of Utagawa Kunisada I: Reconstruction of Gokan History in the Tokugawa Period
 研究代表者
 津田 眞弓（MAYUMI TSUDA）
 慶應義塾大学・経済学部・教授
 研究者番号：40390588

研究分野：人文
 科研費の分科・細目：文学・日本文学
 キーワード：近世文学

1. 研究計画の概要

(1)本研究は、同一紙面に絵と文章が等しい重みを持って世界を表現した草双紙のうち、19世紀初頭からの幕末に至る様式である合巻について、文学研究でも絵画研究でも看過されてきた合巻における絵師の業績に着目し、絵と文双方から考察する総合的な徳川合巻史の構築を目指している。

(2)具体的には、合巻挿絵の第一人者であった歌川国貞の業績について、海外の資料に目を配りつつ、国内の主要図書館の資料のそれぞれの位置づけを行い、国貞の業績を再検討する。

(3)研究成果を専門家だけでなく一般に至るまで広く供することで、こうした基礎研究の意義についての理解を求める。

2. 研究の進捗状況

(1)国貞の合巻の業績について、海外の資料に目を配りつつ、国内の主要図書館の資料の書誌調査、及び資料収集を行なった（現在も続行中）。

(2)書誌調査をもとにデータベースを作成、書誌調査のような基礎研究によってどのようなことが明らかになるか、専門の研究者以外にも認識できる形で提供するにはどうしたらよいか、試行錯誤を繰り返している。

(3)合巻における文章と絵の関係を考察すべく、文に関する論文（雑誌論文）文章と絵のありように関する論文（同）を書いた。また、同じ作家の他ジャンルの作品を元にし

た合巻『塵塚物語』の翻刻、注釈を行ない、合巻の絵の役割を明らかにしようとしている。

(4)国貞・英泉・国芳に大量の私家版浮世絵（狂歌摺物）を発注していた大名（長州藩主毛利斉元）の活動の一端を報告、これを通じて江戸時代後期の文化形成のあり方を考察した（学会発表、図書）。

(5)研究の成果を講演・パネル展示の形で積極的に一般に紹介した。代表的なものは以下の通り。

- ・講演「柳桜亭江戸廻花也の正体 大名の狂歌遊び」（役者絵とその周辺、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、2008）
- ・講演「江戸の源氏物語 光君の記憶」（日吉キャンパス公開講座、慶應義塾大学、2008）
- ・パネル展示「疱瘡絵本研究 『雛鶴笹湯寿』と『桃太郎手柄話』をめぐって」（慶應義塾大学日吉キャンパス研究活動報告会、2008）
- ・講演「浮世絵と草双紙」（フランス国立東洋言語文化研究所、2008）

3. 現在までの達成度

やや遅れている

計画を申請した当時、研究代表者は非常勤の学術研究員をしており、研究時間が比較的多くとれ、エフォートも40%以上あった。しかし2008年度に専任職を得て、教育や校務に対する義務が増し、この研究に従事できる時間が著しく減った。本研究の計画は、非常勤職の状況をもとに作成したので、現況での遂行に、大きな負荷がかかっているため。

また、データベースをよりよいものにする

べく、設計の変更を繰り返し試行錯誤しているため。

4. 今後の研究の推進方策

(1)現在続行中の調査・研究をとりまとめ、成果を発表する事を第一とする。具体的には、まず3(1)に記した通り、全国主要図書館が所蔵する資料の調査と、主として複写による資料収集の続行。

(2)書誌データのデータベースの作成、その成果を一般に供する形にまとめる。

(3)『塵塚物語』の翻刻・注釈とその成果をまとめる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

津田真弓、「疱瘡絵本『雛鶴笹湯寿』考」、『国語国文』78巻7号、1-19、2009、査読有

津田真弓、「世話物語への挑戦 十九世紀草双紙の文体」、『文学』隔月刊8巻6号、45-52、2007、査読無

[学会発表](計4件)

津田真弓「十九世紀の草双紙を考える 歌川国貞と歌川国芳を中心に」、奈良絵本・絵巻国際会議神戸大会、2009年8月30日

津田真弓「草双紙における絵と文の役割」、奈良絵本・絵巻国際会議アルザス大会、コルマル市展示館、2008年9月25日

津田真弓、「Ryuotei Edo no Hananari: Daimyo of Choshu Province and Surimono Patron」、Surimono Workshop、リートベルグ博物館、2007年8月21日

津田真弓、「疱瘡絵本『雛鶴笹湯寿』考」、日本近世文学会春季大会、青山学院大学、2007年6月9日

[図書](計1件)

津田真弓「The Daimyo as Kabuki Fan and Kyōka Poet: Surimono Commissioned by Edo no Hananari」(John Carpenter 編『Reading Surimono: The Interplay of Text and Image in Japanese Prints』(Hotei Pub、62-71、2008))